

シンポジウム SY3-2 【データベース委員会】 HBO 施設アンケート調査と診療報酬改定への反映

丹羽康江¹⁾ 向畑恭子²⁾ 小島将稔³⁾ 土井智章⁴⁾
藤田 基⁵⁾

- | |
|---------------------|
| 1) 東京医科歯科大学病院高気圧治療部 |
| 2) 南部徳洲会病院臨床工学部 |
| 3) 総合大雄会病院総合臨床工学科 |
| 4) 富山大学救急医学講座 |
| 5) 山口大学救急・総合診療医学講座 |

学会主導で行われている HBO 施設アンケート調査は、2015年に当時の日本高気圧環境・潜水医学会広報委員会のもと開始された。以後2年毎に調査は継続され、現在2023年度調査の回収・解析作業を進めている。また、これらの情報を管理・活用する専門の委員会として2021年にデータベース委員会が新設された。

この調査では、日本国内の HBO 装置保有施設 (HBO 施設) を対象とし、HBO 装置の設置状況、稼働状況 (疾患別の治療実績、管理部門、減圧症・CO中毒や緊急時対応等) に関する情報の集約を行っている。調査結果は当学会のホームページ内で公開し、HBO 診療情報を望むすべての方 (医療者、患者・家族、行政等) に公開することで、社会的要請に寄与せんとしている。HBO は装置に依存する治療であり、施設環境 (地域差や施設の機能、装置種) に加え、診療背景 (多彩な適応疾患) によって受け入れ可能な疾患、患者状態に地域/施設間格差・制約が生じている。HBO 装置非保有施設が HBO でしか治療できない疾患に遭遇した際に HBO 施設と速やかな連携により最適な治療を提供しうる一助となるよう、このアンケートは存在する。

全国規模の調査によって、我が国の HBO 診療の実態や医療ニーズを知ることができる。2023年の診療報酬改定に関する厚生労働省とのヒアリング資料の中で、2021年の治療実績を代表値として全国的な概算を算出するために利用された。今後も社会・医療情勢に即した適応疾患の見直しに活用することも想定している。

現在のアンケート調査は各施設の実績を集積したデータであり、全体の概要、傾向を捉えるのに非常に有用である。一方、外科系の学会を中心に複数の学会で「症例登録」への参加が個々の専門医資格や認定施設要件として義務付けられている。症例登録は煩雑だが、その集積データから国単位の実績に加え、項目に転帰 (治療効果等) を含めることで、我が国としての治療成績を評価でき、臨床・学術力の向上に大きく寄与する。このようなデータベースの二次利用の流れを国も諸学会も推奨している。

診療報酬改定への応用の一例として、放射線治療の学会 (日本放射線腫瘍学会) の例を挙げる。放射線治療は重大な医療事故を回避し、治療の質と安全性を保証するために人的要件 (専門医、専門技師、専任/専従看護師等) と体制/施設要件 (治療回数実績、装置種別、安全管理体制) を設定し、診療報酬取得のための「施設基準」に含め、「施設加算」「安全管理加算」等の治療とは別の診療報酬体系を構築した。要件不足の場合には診療報酬を減算するなどの措置もある。人的資源、施設整備への重要性を訴え、診療報酬に直結した結果、多くの施設での質・実績も向上し、治療の普及に寄与した。HBO は装置や治療回数に依存する放射線治療診療と類似点が多く、参考になるとと思われる。